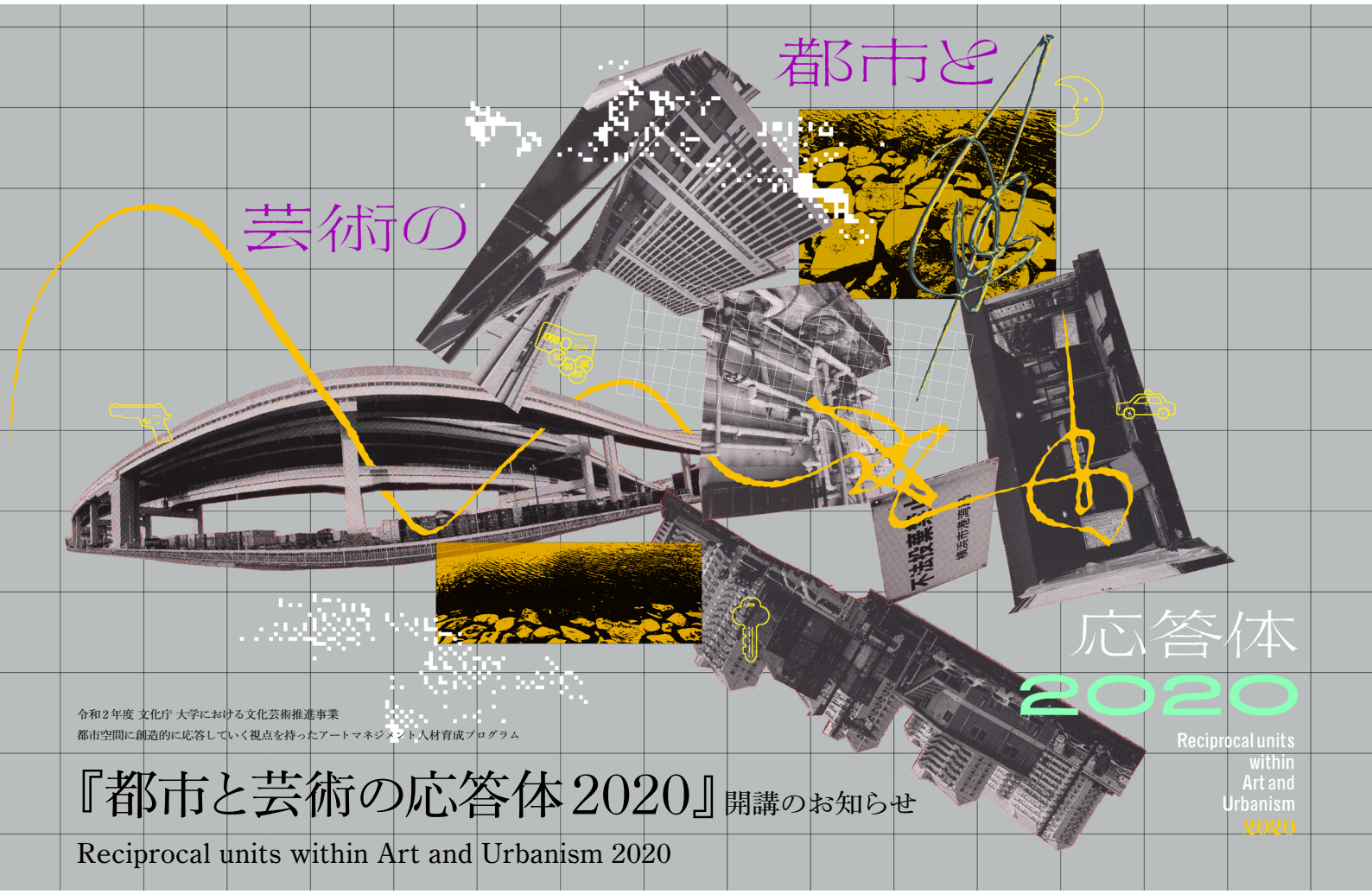
平素より大変お世話になっております。
横浜国立大学『都市と芸術の応答体2020』開講のお知らせのニュースリリースを送付させて頂きます。 貴媒体にてご取材、情報掲載などご検討くださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

お問合せ：山本さくら（広報）rau.ynu@gmail.com



藤原徹平（建築家）・平倉圭（芸術学研究者）がゲストアーティストに三宅唱（映画監督）他を迎え、都市と芸術の在り様を問う対話と実践のオンラインプログラムを開講。5／18（月）より受講応募開始。参加無料。

横浜国立大学では、都市イノベーション学府や都市科学部を設立するなど、都市をテーマにした文理横断的研究教育の先駆的な取組を重ねてきました。

この度、次世代の建築家を養成する大学院Y-GSAと、これからの芸術の理論と実践を行うY-GSCの活動を核に、藤原徹平（建築家｜横浜国立大学Y-GSA准教授）・平倉圭（芸術学研究者｜横浜国立大学Y-GSC准教授）を中心に、都市と芸術の在り様を問う対話と実践の場をつくることになりました。

都市をテーマに意欲的な作品制作を重ねる気鋭の映画監督・三宅唱氏をゲストアーティストに迎え、「2020年の都市を応答的に記録する」映像制作ワークショップ、実践的な制作ミーティング、関連するテーマの最先端の研究実践者を招く対話型ゼミ、映像の上映プラン立案、記録誌の作成に約1年間を通じて取り組みます。

受講期間を通して、プログラムマネージャーである染谷有紀（司会者）、山川陸（建築家）を中心に、これからの都市のなかで生まれる芸術を考えるコミュニティを醸成し、受講生・ゲスト・ディレクターを交えた議論や交流を継続します。

本プログラムは現在の新型コロナウイルスの流行状況を踏まえ、オンラインコミュニティを核として活動します。制作ミーティングやレクチャー、ゲストを迎えての作品制作をオンラインで行うため、インターネット環境がある方であれば日本中どこからでも、海外からでもご参加いただけます。

あいさつ

「都市」のなかで生まれる「芸術」の在り様を考えるプログラム、『都市と芸術の応答体2020』をスタートします。

私たちの生きる都市は、少子高齢化、人口減少、多国籍化、都心への一極集中、産業構造の転換、大災害、パンデミックなど、その様相は21世紀に入り変化しつづけています。社会を拘束する文脈が大きく強く速くなりつづけていて、都市とは何なのかをとらえることすら簡単ではありません。

そのような都市に生まれる芸術とはどのようなものでしょうか。私たちはここで芸術を、美術館や劇場のなかにあるものだけではなく、人を触発する形を制作する技術とその技術の産物として広く捉えてみたいと思います。

都市に応答する芸術を考え、実践することを通じて、都市そのものを深く理解し、芸術を為す感覚で都市そのものを創造していくような地点にたどり着きたいと考えています。

そのために私たちは一つの場を立ち上げます。

この場所では、私たちに気づきを与えてくれるゲストアーティストとの深い対話を軸に、都市と芸術に関わる新しい論点を探っていきたいと思います。集団的なリサーチを行うかもしれませんし、実験的なアートプロジェクトをつくることになるかもしれません。これからの都市や芸術を一緒に探求していくべく、仲間を集め、集団的思考の場をともに育てていきたいと思います。

藤原徹平・平倉圭

スケジュール

※6/10から、プログラム終了時まで隔週水曜日の19:00－21:00が活動日です。下記スケジュールの詳細や、変更がある場合は、公式HPおよびSNSアカウントにて随時告知致します。

5月	5/18（月）	参加者募集開始
	5/27（水）	プレイベント「都市と芸術の応答体2020」に向けて
6月	6/5（金）	募集締切
	6/8（月）	選抜結果連絡
	6/10（水）より	隔週水曜日で19:00-21:00にオンラインミーティング
7月下旬－8月上旬		「2020年の都市を応答的に記録する」映像制作ワークショップ　パート①
8月下旬－9月上旬		「2020年の都市を応答的に記録する」映像制作ワークショップ　パート②
10月－11月		隔週でのゲストレクチャー等
12月－2月		制作映像の発表、記録誌の作成等

募集条件

対象者	・文化芸術・文化行政・まちづくりの分野で活動する方 ・社会や都市への意識を持つアーティスト、クリエイター ・実践を通してアートマネジメントを学びたい方 ・分野を超えて芸術を考えたい学生、研究者、社会人 ・隔週水曜日開催のオンラインミーティングに参加ができる方
受講方法	Zoomを利用したオンライン配信　※一般公開はYoutubeLIVEを利用予定
参加費	無料
定員	30名程度（人数が多い場合は、選抜を実施する可能性があります）
募集期間	2020年　5/18（月）－ 6/5（金）
申込方法	下記の項目を記入し、**rau.ynu@gmail.com** までお送りください。 1　氏名・年齢・職業・性別 2　活動がわかるウェブページなどのリンク（任意） 3　「最近、あるいは改めて都市について面白いと思ったこと」 4　「集団的に物を考えること・作ることについてどんな興味がありますか？」 5　「最近かっこいいと思っているモノやコトの画像3点」

プレイベント「都市と芸術の応答体2020に向けて」

日時	2020年　5/27（水）　19:00－20:00　開場18:50
登壇者	ディレクター｜藤原徹平　平倉圭 プログラムマネージャー｜染谷有紀　山川陸
参加申込	**https://rau2020-pre-event.peatix.com/**
配信方法	Zoomによる配信。Peatixで予約後に配布されるURLで入室して頂きます。
概要	受講生募集中のプログラム『都市と芸術の応答体2020』について、ディレクターの藤原徹平・平倉圭がプログラムの設立の経緯や期待すること、プログラムの特徴やテーマに基づく興味・関心等を語ります。オンライン配信のため、チャット機能を用いた質疑にも随時お答えします。

運営体制

主催　国立大学法人　横浜国立大学
助成　令和2年度 文化庁「大学における文化芸術推進事業」
事業統括　藤原徹平（建築家｜横浜国立大学Y-GSA准教授）
事務局　『都市と芸術の応答体2020』事務局

住所　〒240-8501　神奈川県横浜市保土ケ谷区常盤台79-1　建築学棟4階
メール　rau.ynu@gmail.com（担当：染谷・山川）

HP **rau-ynu.com**　twitter **@RAU_YNU**

ディレクター｜　藤原徹平　平倉圭　プログラムマネージャー｜染谷有紀　山川陸
プレス・広報｜山本さくら　グラフィックデザイン｜鈴木哲生
最新情報はwebにて更新。

ディレクター 略歴

藤原徹平　FUJIWARA Teppei
建築家
1975年横浜生まれ。横浜国立大学大学院Y-GSA准教授。フジワラテッペイアーキテクツラボ主宰。一般社団法人ドリフターズインターナショナル理事。
横浜国立大学大学院修士課程修了。建築や都市のデザイン、芸術と都市の関係を研究•実践している。主な作品に「クルックフィールズ」、「那須塩原市まちなか交流センター」、「京都市立芸術大学移転設計」、「ヨコハマトリエンナーレ2017会場デザイン」、「リボーンアートフェイスティバル2017会場デザイン」など。受賞に横浜文化賞 文化・芸術奨励賞　日本建築学会作品選集新人賞など。

平倉圭　HIRAKURA Kei
芸術学研究者（近現代美術、パフォーマンス、映画）
1977年生まれ。横浜国立大学大学院Y-GSC准教授。
国際基督教大学卒。東京大学大学院学際情報学府博士課程修了。博士(学際情報学)。芸術の制作プロセスにはたらく物体化された思考を研究している。最近はダンス研究を少しずつ。著書に『かたちは思考する―芸術制作の分析』（東京大学出版会、2019年）、『ゴダール的方法』（インスクリプト、第二回表象文化論学会賞受賞）、『オーバー・ザ・シネマ　映画「超」討議』（共著、フィルムアート社）ほか。

ゲストアーティスト 略歴

三宅唱　MIYAKE Sho
映画監督
1984年北海道生まれ。一橋大学社会学部卒業、映画美学校フィクションコース初等科修了。主な長編映画に『ワイルドツアー』（2018）、『きみの鳥はうたえる』（18）など。最新作はNetflixオリジナルドラマ『呪怨：呪いの家』（20）。他に鈴木了二との共同監督作『物質試行58：A RETURN OF BRUNO TAUT 2016』（16）やビデオインスタレーション作品として「ワールドツアー」（18/山口情報芸術センター［YCAM］との共作）、「July 32,Sapporo Park」（19/札幌文化芸術交流センター SCARTSとの共作）などを発表している。